

すーちか

思いやりを育てる

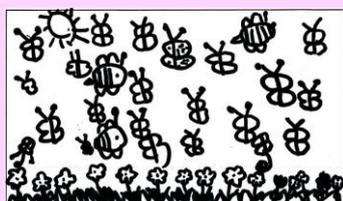
「思いやり」とは、「自分以外の人のために気遣いをする事、相手の立場に立って考え、思いを共有すること、そして相手に同情する気持ちを持つこと」などの意味を持つ言葉です。思いやりのある人は、自分の意思で「人に親切にしたい」という気持ちを持って行動しているの、優しさを本当に持っている人であるといえます。

実際の行動で大人が見せることが何より有効なのです。大人自身が「優しい、そして思いやりのある言動」をすることにより、子どもたちの「優しさ、思いやりの心」が自然と育つのではないのでしょうか。

☆相手の気持ちを一緒に考える
・飲み物をこぼしてしまったら、「何やってるの!」と言うのではなく、「こぼしちゃったね、一緒に片付けようね。」などと共感の言葉かけをする。

・友達とケンカをしてしまった子には、「いつまで怒っていたの!」ではなく、「悔しかったよね。〇〇ちゃんも同じ気持ちかな。」などと相手の気持ちに寄り添う言葉をかける。

・子どもの優しい行動に「ありがとう」「嬉しいな」などの自己肯定感が育つような言葉かけを意図的にする。このような言葉かけが自信となり、相手に対して率先して「思いやりのある行動」をするようになります。



高ノ台幼稚園
かわかみ ゆり

☆相手の気持ちが想像できる
絵本や紙芝居を読む場合には、

意図的に「〇〇さんはどんな気持ちだったろうね」などと問いかけ、登場する者の気持ちを考えさせる。そして「一人ぼっちになり寂しくて不安だったよね」などと、気持ちを上手に伝えるようにする。このような機会を増やすことにより、子どもたちは、「きっと〇〇さんはあんな気持ちだったに違いない」と自然と想像をめぐらせます。そして、人の気持ちや痛みを感じることができるようになります。

☆優しい行動の積み重ねを大切に
子どもが泣いたり痛がったりしていると、大人は、「大丈夫」「痛い痛い飛んでいけよ」などと声をかけます。子どもは、人に優しくしてもらおうと嬉しいということを体験し、次回は自分も周りの人に同じ行動をとろうとします。

この積み重ねにより、子どもは交友関係が広がると同時に、相手の様子に気付き優しく接することができるようになります。

☆ものを大切に

する
人だけでなく、動物・食べ物・草花などすべてのものに「慈愛」の気持ちを持たせることも大切です。あらゆるものが溢れ返り、蛇口をひねればすぐ水が出てくるこの時代、ものに対するありがたみを感じにくくなっています。「いただきます」「ごちそうさま」を言い、食べ物に感謝する。自分より小さい・弱い生き物を大切に。そのような優しい気持ちを自然と持つことができるようになれば、子どもたちは、他人の気持ちを考え、行動できるようになります。



せんだん幼稚園
ひぐち かりん

☆心の発達に不可欠な「ごっこ遊び」一緒に遊ぶ中で、友達の心の動

きが自然と分かったり共有できたりします。また、友達の考えていることが自分と違うということに気付く、それを理解して自分の行動を決めていく自己決定の力も身に付いてきます。子どもたちが普段何気なく行っている「ごっこ遊び」は、「心の発達、創造力、表現力、協調性、コミュニケーション力」などを自然と身に付けるものなのです。

☆おわりに

子どもと接する際には、相手の気持ちを想像させることや気持ちを言語化することが大切です。子どもの「思いやりの心」を育てようとして「大切なこと」がインプットされ自然に習慣化されます。子どもはコミュニケーションを通して学ぶことが多いため、子どもの気持ちを考えながら様々な場面で優しい言葉かけを意識していきたいものです。

☆子どものつぶやき☆

(戸外あそびの場面)

A君「先生、カタツムリ見つけたよ。」

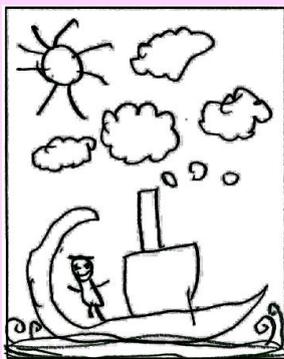
先生「見せてえ！」

「あつ、本当だ。」

A君「でも、カタツムリの殻、からっぽなんだ。お家が小さくなったから、大きなお家見つけたのかな？」

先生「そうかもしれないね！」

カタツムリとヤドカリが一緒になってしまったのでしよう。子どもらしいつぶやきにはほっこりとさせられました。



中村保育所
おおねた せなと

こちらの家庭教育通信をお読みいただいた感想をお聞かせください！



真岡市では家庭教育について情報を発信しています！ご覧いただき、ぜひご活用ください。



オピニオンリーダー会、コアラちゃんクラブなどの様子が見られるよ！

ホームページにあそびにきてびよん♪

